

2020年 2月 3日

当社連結子会社による、中国におけるウイルス感染症 対策事業に関するお知らせ

当社の連結子会社であるAdjuvant・Immunity Probes Laboratory株式会社(以下、「AIPL社」と言います。)が中国・香港で進めていた経鼻アジュバント不活化インフルエンザワクチン事業開発において、途上に新たに出現した新型コロナウイルス感染症にも、中国と共同で対応することを2020年1月29日に当社HPにおいてお知らせいたしました。本日AIPL社がプロジェクトチームに参加する多企業と連携し、中国国内において経鼻アジュバント不活化インフルエンザワクチンを投与することを決定いたしました。また、早期に投与を開始できるよう、病院の選定に入ることもあわせて決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、ワクチンは中国国内で調達し、実際の投与は中国国内の医師が行います。

1.中国国内対応の概要

ウイルス感染に対し交叉防御を持つ経鼻アジュバント、特にdsRNA(PolyI:C)は正常細胞(線維芽細胞)やリンパ球などに作用し生体内にインターフェロンを誘導します。DC細胞(樹状細胞)のみならずまた線維芽細胞での抗原提示(ワクチン作用)も増強します。

インターフェロンは生体が持つ唯一かつ直接の抗ウイルス物質でありますので、PolyI:Cは現在までのところ最も安全なインターフェロン誘導物質であることが知られています。

AIPL社が使用するPolyI:C(+その他アジュバント)は粘膜局所と全身、血中で2週間程度の非特異的な感染防御が期待できますが、経口、扁桃腺を介した感染防御も報告されています。このPolyI:C(+その他アジュバント)を活用して、今回の事態に対応するものです。

PolyI:Cの経口および静注による接種においてヒトでのRNAウイルス感染での抗ウイルス効果、生体内のインターフェロン誘導の臨床試験はすでに終了しております。

また、PolyI:CはCFS(慢性疲労症候群)静注において、アメリカでの20年間にわたる臨床治験で安全性は確保されています。

また日本国内においては、AIPL社の親会社である当社が事業展開する会員制医療サービスの会員向けに、指定クリニックにおいて中国と同様のサービスを開始することも協議に入りましたのであわせてお知らせいたします。

2.今後の見通し

本件が業績に与える影響はありません。

以上